

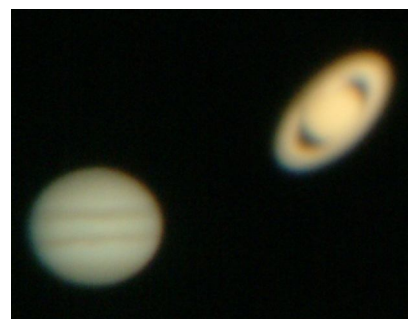
「12月21日の木星と土星の大接近」

== 観察ガイド ==



12月21日の日没後には、木星と土星はこんなふうに見えます。17時から18時ぐらいが一番観察しやすいと思います。視力の良い人なら、「2つの星」に見えるでしょうが、ほとんどの人は「1つの星」に見えると思います。

北斗七星の「ミザールとアルコル」は二重星で、視力の良い人だけ「2つの星」に見えますが、今回の「木星と土星の大接近」では「ミザールとアルコル」よりも、もっと接近するのです。

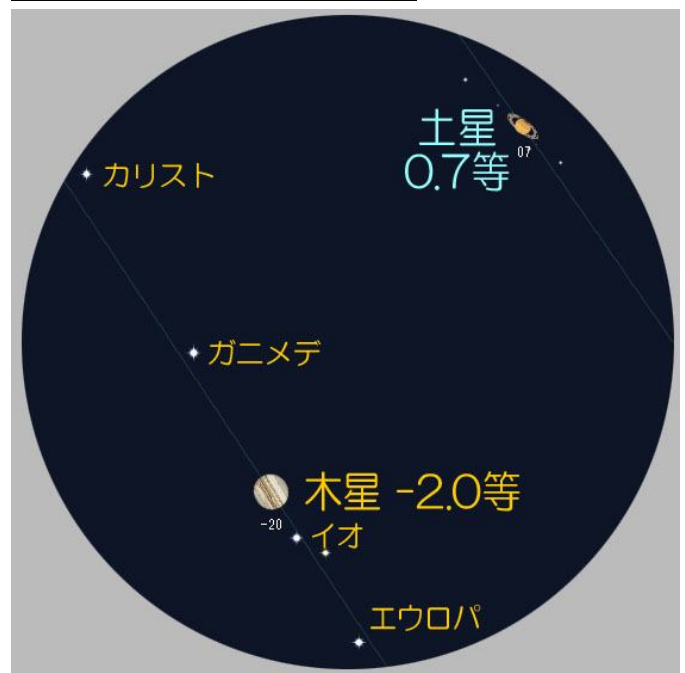


「大接近」というと、ぼうえんきょうではこんなふうに見えると想像しますが、実はもっとずっと離れて見えます。

今の時期、日没後の南西の空を見ると、明るい星が2つ並んでいますね。より明るいほうが木星、もう一つが土星です。その2つの太陽系惑星が、12月21日に「歴史的な大接近」をします。これは約400年ぶりの「大事件」(天体イベント)で、次に見られるのは約60年後なので、今回是非観察しておきたいですね。



「木星と土星が大接近する」といっても、本当に2つの惑星の距離が近づくわけではありません。図のように、地球-木星-土星がほぼ一直線に並ぶので、地球から見ると、近づいているように見えるのです。実際には、木星と土星の地球からの距離は約2倍もちがいます。地球から見て「木星と土星が完全に重なる現象」(木星による土星食)は、太陽系で起きる天文現象の中で最も稀なことで、これから10万年間待っても1回も起きません。今回の大接近は木星と土星が角度約0.1°まで接近しますが、それでもとても珍しいことなのです。これは腕をのばして持った五円玉の穴に、木星と土星が両方入ってしまうほどの大接近です。



もし、双眼鏡や、小型の天体望遠鏡があったら、是非使ってみてください。うまく2つの惑星を同時に見られれば、こんなふうに見えるはずですが、木星には斜めのしま模様と4つの衛星(木星の「月」)が、土星には「環(わ)」が見えるはずですが、このような「木星と土星の記念写真」はめったに撮れないので、きっとだれか挑戦する人がいると思います。